神戸新聞　平成２９年７月６日（木）

ラストシーズン

㊦ 氷上西

部員不足 女子も〝戦力〟

第99回全国高校野球兵庫大会 8日開幕

兵庫県中東部の緑深い山々を望む氷上西グラウンド。少人数ならではの和気あいあいとした雰囲気でノックが始まった。男子部員に交ざり、女子マネジャーもグラブを手に同じメニューをこなす。「ボールは怖いけど、楽しい」。3年の足立麻緒マネジャーは無邪気な笑みを浮かべる。

女子マネジャー3人はいずれもソフトボール経験者。足立寛監督（26）は「うちでは貴重な戦力」という。女子は公式戦には出場できないが、「フットワークなど、お手本になる部分が多い」と指揮官。打撃練習にも加わり、練習試合でヒットを打った女子もいる。

他部などからの助っ人を除いた男子部員は2年生エースの芦田祐馬主将をはじめ全員が下級生。3年の女子マネジャー2人だけが「最後の夏」を迎える。

昨秋は人数不足のため大会に出場できなかった。今春は柏原から3人の選手を派遣してもらって地区大会に出場。生野に0－12で敗れた。1年生が加わった今夏、他部の選手も借りて選手13人がそろい、現チームでは初めて単独での公式戦に挑む。

3年生の女子マネジャー、足立麻緒さん（右から4人目）とともに健闘を誓う氷上西ナイン＝丹波市の同校グラウンド

中学時代は不登校だった選手や、高校から野球を始めたメンバーも。遠方からのバス通学を考慮して午後6時までに練習を切り上げるなど、環境にも恵まれていない。戦力は心もとないが、足立マネジャーは「（他校から）うまい選手を借りたら甘えてしまう。みんな責任感がでてきて上達につながった」と後輩の成長を実感している。

氷上西は夏の兵庫大会である記録を持つ。2011年の1回戦で姫路工に大会史上最多失点となる0－71で敗れた。当時、地元の小学生だった芦田主将は「僕が入って強くする」という思いで氷上西に進んだ。エースとして「（大会では）三振を多く取って味方の守備を楽にしたい」と、経験の浅い仲間を思いやる。

最後の夏が近づき、「ドキドキしてきた。試合では本来のマネジャーとしてサポートする」と足立マネジャー。足立監督は「まだまだ未完成な部分はそこら中にあるけど、結果はどうであれ楽しんでほしい」と見守る。

チームの目標は「九回まで試合をすること」。最終回まで懸命に白球を追い、笑顔で3年生マネジャーを送り出すつもりだ。

（山本哲志）

少人数チーム　兵庫県高野連加盟の164校の中には、氷上西と同じく部員の確保に悩むチームも多い。今大会でベンチ入りメンバーが20人に満たないチームが26校あり、最少は自由ケ丘の9人。伊和は部員不足のため出場を辞退した。